

## 調査・研究報告書 ( 中間報告 )

### 調査・研究課題：

真のセルフメディケーション支援薬剤師の養成と新しい薬局モデル構築のための研究

特定非営利活動法人ふあるま・ねっと・みやぎ 調査・研究者氏名 戸田絃子

共同研究者氏名 佐々木孝雄、富永敦子、鈴木洋子、本良やす子、金田早苗、

今野勇、井上昭吾、及川雪子、伊藤みどり、坂本尚夫

( 981-8002 仙台市泉区南光台南 3 - 6 - 2 1 Tel.022-251-0767 )

### 【要旨】

2009年6月1日より、46年ぶりに改正された薬事法が完全施行となり、OTC 医薬品の販売制度が大きく変わった。従来の薬事法の中では、OTC 医薬品を扱かう者は薬剤師のみであった。

しかし、医薬分業推進一辺倒で進んできたこの10余年の間に、薬剤師といえば薬局薬剤師(保険薬剤師)という表現が当たり前になるほど薬剤師の医薬品への関わり方が変わってしまった。このことは、改正薬事法のもとでの登録販売者の誕生と無縁ではない。

一方、国においては膨張する医療費抑制のために、国民に対して「セルフメディケーション」による健康管理を提唱している。自己の責任で健康管理を行い、軽度の不調はOTC 医薬品等を用いて手当をするようにということである。そして国民のセルフメディケーションを支援することは薬剤師の役目だといわれている。これを受けて今、薬剤師の大多数を占める薬局薬剤師もOTC 薬や健康食品を扱わなければならないと思い始めている。しかし、真のセルフメディケーション支援は、現在の保険薬局のスタイルでは難しいであろう。同様に、バラエティショップ化したドラッグストアにおいても期待はできない。

それではどうするか？ 現在の姿を見つめ直し、新しいビジョンを持って、全薬剤師および施設の開設者が、真のセルフメディケーション支援のための努力をすることこそ、新しい販売制度の下で自

らを活かす道であると考え。本研究は、その糸口を探る一助として4つの関連項目について実施されたものである。

【お詫び】 去る3月11日に発生した東日本大震災により、会議や事業の中断を余儀なくされ、最終段階のまとめ等ができない状況にありますことから、今回の報告は中間報告とさせていただきます。

後日正式な報告書を提出致します。

## 1. 調査・研究目的

調剤偏重の昨今、OTC薬販売の経験がない薬剤師が大多数を占めている。国民のセルフメディケーション（以後SMと略す）支援のために、新しい視点を持ったOTC薬剤師を養成する。また、薬剤師、薬局開設者および一般生活者の意識や問題点を明らかにし、真のSM支援の場としての薬局の新しい姿を提案するために4つの調査・事業をおこなう。

## 2. 調査・研究方法

2-1 アンケート調査：管理薬剤師、薬局開設者および一般生活者の意識調査から問題点を明らかにする

- ① 一般生活者：SMの認知度、OTC薬購入行動、薬剤師への認知・期待などについて、健康イベント参加者を対象として直接アンケートを実施する（宮城県薬剤師会および仙台市薬剤師会の後援）。
- ② 管理薬剤師：SMの認知度、OTC薬販売の意義・経験、今後の取り組みなどについて
- ③ 薬局開設者：SMの認知度、OTC薬販売の意義、今後の取り組みなどについて
- ④ 薬局開設者かつ管理薬剤師：SMの認知度、OTC薬販売の意義・経験、今後の取り組みなどについて

②、③、④は封書郵送によるアンケートとする。

## 2 - 2 シンポジウム： 真のセルフメディケーション支援のための薬局と薬剤師のあり方を探る

宮城県薬剤師会との共催で実施する

## 2 - 3 セミナー： 薬剤師および登録販売者を対象とした「実践的 OTC 薬学セミナー」

宮城県薬剤師会との共催で実施する。 受講者固定6回シリーズ

- ① セミナー開催(6回) 23年1月、2月、3月 (後半は23年度5月、6月、7月)
- ② テキスト作成：前半は毎回テキスト資料を配布して様子を見る。3月中に製本化する

## 2 - 4 新しい薬局モデルの提案： アンケート調査を踏まえた新しい薬局モデルの研究と提案

- ①アンケート調査の解析と考察
- ②真のセルフメディケーション支援に必要な理念とその実践プラン
  - ・ 店作りのコンセプト、開設者と薬剤師の意識・視点、OTC薬の特徴を捉えた品揃え
  - ・ SM支援スキルなどを踏まえた実践プラン作成と薬局モデル提案

## 3 . 調査・研究成果

### 3 - 1 アンケート調査：

SMについての意識調査は4つの対照群に対して実施した。

- ①一般生活者に対するアンケート(薬と健康のつどいに参加した108名)
- ②管理薬剤師に対するアンケート(仙台市青葉区99店舗)
- ③薬局開設者に対するアンケート(仙台市青葉区99店舗(②と同じ))
- ④薬局開設者でかつ管理薬剤師に対するアンケート(仙台市青葉区および太白区40店舗)

①一般生活者向けの調査は、宮城県薬剤師会の健康イベント「薬と健康のつどい」への参加者に対してアンケート用紙を渡して記入してもらい回収箱に回収した。108名から回答があった。

②③④の店舗は、みやぎ薬局検索により抽出した。②③は仙台市青葉区の店舗のうち、開設者と管理薬剤師が異なる99店舗に対して実施した。④は青葉区および太白区に店舗を持つ開局薬剤師(薬

局開設者でかつ管理薬剤師)を対象とし、いずれも郵送により回答を回収した。

それぞれのアンケート内容を、別紙1～4に示す。

1) 一般生活者向けの調査：対象者となったのは、健康イベントに参加する意志を持って来場した方および通りすがりに入場した方であり、一定のバイアスがかかっていることにはなるが、「比較的健康や薬に関心がある層の傾向」と捉えることはできると考える。解析等はまだまだ十分ではないが結果を記す。

年代別では、50代がやや多いが、20代から70代までほぼ均等であった。46%の人が何らかの処方薬を服用していた。OTC薬を購入したことがある人は、よく購入する、時々購入するを合わせて84%であった。購入先については、約70%がドラッグストア、30%が薬局と答えているが、薬局の中には店舗販売業も含まれていると思われる。かかりつけ薬局で購入と答えた人は8%に止まった。本アンケートの重点設問として「問2.軽度の不調や傷などは、OTC薬などを適切に使用して健康を保つことをセルフメディケーションといい、国も推奨しています。上手に健康管理をするために、薬局や薬剤師に何を期待しますか？」に対する回答では、薬局に対して：相談しやすい雰囲気67%、信頼できる薬剤師がいる49%、豊富な品揃え24%、価格29%、休日・夜間対応15%、薬剤師に対して：薬の効果や副作用73%、食品や健康法などの適切なアドバイス33%、OTC薬選択アドバイス39%、人柄(親切である)14%、簡単な健康チェック12%であった。

OTC薬を購入した際に薬剤師の説明や助言が欲しいと思ったことはあるか?という問いに対しては、あると答えた人は70%、必要ないと答えた人は11%であった。OTC薬を使用する際に添付文書を読んでいると答えた人は70%であった。集計結果を別紙5に示す。

## 考察

健康により関心のある生活者が集まるイベントでの調査ではあったが、回答者の約半数が何らかの処方薬を服用中であった。OTC薬もよく購入する、時々購入するを合わせると84%であり、高齢者にこの傾向が強く、飲み合わせなどのチェックが必要である。購入先については、約70%がドラッグストアであり、かかりつけ薬局で購入と答えた人は8%に止まっていた。「セルフメデイケーションにより上手に健康管理をするために、薬局や薬剤師に何を期待しますか？」に対する回答では、薬局に対しては、相談しやすい雰囲気67%、信頼できる薬剤師がいる49%、豊富な品揃え24%、価格29%、休日・夜間対応15%であり、薬局の雰囲気と薬剤師がキーポイントであることが分かった。薬剤師に対しては、薬の効果や副作用73%、食品や健康法などの適切なアドバイス33%、OTC薬選択アドバイス39%、人柄(親切である)14%、簡単な健康チェック12%であり、より専門性を期待していることが明らかであった。OTC薬を購入した際に薬剤師の説明や助言が欲しいと思ったことはあるか?という問に対しては、あると答えた人は70%であり、その理由では、副作用や相互作用についての説明が欲しい、種類が沢山あるので選択のときにアドバイスが欲しい、健康や薬に不安があるので聞きたいなどが多かった。OTC薬の購入先を考え合わせると、薬剤師の専門性が十分に生活者に届いていないことがうかがわれた。SM支援を推進する上で喫緊に解決すべき問題だと考えられる。

2) 管理薬剤師、開設者、開設者かつ管理薬剤師に対する調査： 「薬剤師がSMに関わることにどう思うか?」の設問は管理薬剤師及び開設者の全員に、「SMを行っていますか」の設問は薬剤師に、「SMがすすまない理由はなんですか」の設問は管理薬剤師と薬局開設者に対して行った。集計結果を別紙6に示す。

### ( 1 ) 回答率と内訳

アンケートの回答率は、管理薬剤師では 50%で ( 49店舗 / 99店舗 )、開設者では、36%で ( 36店舗 / 99店舗 )、開設者かつ管理薬剤師では 45% ( 18店舗 / 40店舗 ) であった。

店舗の形態について、管理薬剤師の回答では、調剤中心の店舗が 46 ( 94% )、そのうち OTC薬の取り扱いがある店舗が 26 ( 57% ) であった。OTC薬のみの店舗は 1店舗で、両方と答えたのは 3店舗だった。また、開設者かつ管理薬剤師では、調剤中心が 8店舗、OTC薬中心が 8店舗、ドラッグストアが 2店舗であった。

### ( 2 ) 薬剤師が SMに関わることについて

〔管理薬剤師〕

調剤中心の管理薬剤師からの回答では、OTC薬の取り扱いがあるなしに関わらず約 80%の薬剤師が「薬剤師の職能である」と答え、もっと積極的に関わった方がいいと答えた薬剤師は約 20%であった。同時に約 20%の薬剤師が「自信がない」と答えていた。

〔開設者〕

一方、薬剤師でない開設者の回答では、「薬剤師の職能である」と答えた方が 80%であったが、特に必要がない、一部の薬剤師でよいと答えた方もいた。

OTC薬の取り扱いがあるなしで、SMに対する意識に違いがあるかどうかを分析してみたが、開設者を含めた薬剤師全体では、その傾向に違いはなかった。

### ( 3 ) 薬剤師の SMへの自覚について

〔管理薬剤師〕

管理薬剤師の回答では、OTC薬の取り扱いの有無に関係なく、SMを心がけていると答えた薬剤師は 60%前後であった。

〔開設者かつ管理薬剤師〕

回答した18名のうち、OTC薬の取扱いのあるのは16名であり、ほとんどがSMをおこなっているか  
或いは心がけていると答えていた。

薬剤師全体でみると、OTC薬の取り扱いがある薬剤師のほうが、SMをおこなっている、心がけて  
いるという答えが多いという結果になった。

#### (4) 薬剤師のOTC薬への関心について

管理薬剤師の回答では、OTC薬取扱の有無に関係なく、知識があると答えた方が43%であった。

一方、知識不足と答えた方も47%であった。関心がないと答えた薬剤師は8%であり、薬剤師のO  
TC薬への関心が高いことがわかった。

#### (5) 研修への意欲について

管理薬剤師のみに設問したが、約60%が研修をうけてみたいと答え、思わないと答えたのは40%  
であった。

#### (6) OTC薬の取扱がすすまない理由について

〔管理薬剤師〕

管理薬剤師には自由記載方式としたので複数回答もあり、回答は多岐にわたっていた。

会社に貢献しない(25%利益が出ない、在庫)、調剤で忙しい(23%)、スペースがない(18  
%)、価格(13%)などであった。

〔開設者〕

開設者の81%が在庫と価格と答えていた。スペースも50%近くあげていた。その他、人員の確保  
、薬事行政の煩雑化、卸値などの問題点があげられた。

全体としては、薬剤師、開設者共に在庫と価格の問題を挙げている。また多くの店舗では、店舗設計、薬剤師配置が調剤向けになされていることがうかがえた。薬剤師が挙げた理由の中に、近隣の医師・診療機関への気遣いがあることやOTC薬への不信感などがあったことは、SMへの理解不足があるようである。

#### (7) モデル薬局への関心について

〔開設者〕

開設者が薬剤師であるかどうかにかかわらず、約半数の開設者が、モデル薬局を参考にしたいと考えていることがわかった。一方、30%は興味がないと答えていた。

#### (8) 考察

薬剤師がSMに関わることについて、調剤中心の管理薬剤師も、OTC薬を取り扱わない薬剤師も8割が職能であると認識していることが分かった。もっと積極的に関わるべきという意見も2割程度あった。

調剤中心の薬局、OTC薬の取扱のない管理薬剤師は、2割が関わるべきと思うが自信がないと答えていた。一方、薬剤師でない開設者の約8割が「薬剤師の職能である」と答えていたことは、薬剤師のあり方を考える上で重要であろう。薬剤師は特に関わる必要はない、一部の薬局で関わればよいという意見も2割以上あった。薬剤師のSMへの自覚に関しては、OTC薬の取扱の有無にかかわらず、SMを心がけていると答えた薬剤師が6割であった。SMがなんだかわからないと答えた薬剤師も1割だった。開設者で薬剤師は、ほとんどがOTC薬の取扱があることから、行っている、心がけているという回答であった。

9割の薬剤師はOTC薬への関心もあるが、約半数が知識が不足していると自覚していて、6割の薬剤師が研修を希望していた。



OTC薬の取扱がすすまない理由は、8割は在庫と価格をあげていて、スペース、販売方法その他人員の確保、薬事行政の煩雑化や卸値などもあげられた。

また、モデル薬局を参考にしていきたいと考えている開設者は、半数にのぼった。

以上の結果からSMの推進には、まず、薬剤師がOTC薬の知識を学ぶ研修を受講し、OTC薬の知識をもち、自信をもってSMに関わることであると考える。

また、在庫や価格をはじめ、スペースや販売方法、人員の配置などを含めたモデル薬局を提案することで、開設者との共通認識を持つことができ、SMの推進につながっていくと考えられる。在庫管理と仕入れ値や販売価格に関しては、厳しい現実があるが、今後はモデル薬局の構築にむけて努力していきたい。

### 3 - 2 シンポジウム

現在、OTC薬等を用いたセルフメディケーション支援は、薬剤師の日常業務としておこなわれているとはいいがたい。薬剤師の職能のひとつと位置づけられながら進まない原因として、現在の薬局と薬剤師の意識やあり方が問われていると考える。宮城県薬剤師会との共催により「真のセルフメディケーション支援のための薬局と薬剤師のあり方」をテーマにシンポジウムを開催した（プログラムを別紙7に示す）。

内容と当日の概要を記す（概要は、宮城県薬剤師会広報誌「県薬ニュース」に掲載された）。

22年12月5日（日）、県薬会館セミナーホールにおいて標記シンポジウムが開催された。本シンポジウムは、NPO法人ふあるま・ねっと・みやぎが「公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団」の助成を受けておこなう「真のセルフメディケーション支援薬剤師の養成と新しい薬局モデル構築のための研究」の一環として実施されたものであるが、テーマの重要性と対象が薬剤師であることから、共催：（社）宮城県薬剤師会（生涯学習委員会）、後援：（社）仙台市薬剤師会となった。シンポジウムは、生田県薬会長の開会挨拶で始まり、最初にメイン講演者として東和薬局（花巻市）の武政文彦氏が発表した。

「新たなセルフメディケーション支援のかたち～自己検査値を活用したトリアージ業務の可能性～」と題した話しの中で、まず冒頭に「薬剤師の置かれた立場は、明治維新で失職した幕末の武士達と同じではないか」と危機感を述べ、それに立ち向かうこれからの薬剤師のあり方を提案した。武政氏は、

日薬一般用医薬品委員会委員の他、国の薬事行政にも関わっておられる立場からスイッチ OTC 薬推進の見通しなどに触れたのち、薬剤師のSM支援には「生活習慣病」に重点を置き、未治療者や予備軍を健康食品やにせ薬から引き戻すための方策が必要と説き、ひとつの提案として、簡易自己血糖測定器などによるスクリーニングなど、自己検査値を活用した薬剤師の支援のあり方を示した。

続いて、「あたらしい薬局のかたち」と題して、一樹新生薬局（宮城県薬剤師会副会長）佐々木孝雄氏が発表。医薬分業の進展にともなって、薬局のSM支援機能は弱まってきている。一方では、もはや調剤業務だけでは「かかりつけ薬局」の存在意義を訴求することができなくなっている現状があり、薬事法改正に伴う薬業界の変化に対応できる新たな戦略が必要であると危機感を表明した。多くの生活者が利用しているドラッグストアに関する調査データを示した上で、これからの薬局に求められる2つの側面を、「医療提供施設としての薬局」と「小売業としての薬局」と捉え、そのためには「店舗形態の見直し」が必要であると提起した。専門性の強化、利便性の強化、店内の雰囲気、多様なサービス、ニーズにあった営業時間をキーワードとしたモデル薬局を、自らの実践例として示した。

最後はNPO法人ふあるま・ねっと・みやぎ理事長戸田紘子氏が、「気がつけばセルフメディケーション支援30年～これからの薬剤師の支援のあり方～」と題して発表。まず、SMの定義とその推進のために重要とされる「OTC薬」と「薬剤師」の現状と新しいOTC薬販売制度の中での役割について述べ、ついで、調剤偏重と言われる時世にあって一貫してOTC薬販売の現場に立ち続けた経験から、実際のセルフメディケーション支援の姿を知ってもらい、真の（新しい）SMを担う若い薬剤師の方々へのアドバイスとエールを送った。

シンポジウム終了後、「真のセルフメディケーション支援のために」と題した総合討論がおこなわれた。コメンテーターとして加わった生出会長から、国や日薬の方針や問題点などのコメントがあり、改めて問題点の確認や今後に向けた取り組みに対する意見が交換され、3時間におよぶシンポジウムを終了した。参加者からはこのようなシンポジウムははじめてで、大いに刺激されたという声も聞かれたが、参加者数は40名弱に止まった。

### 3 - 3 薬剤師および登録販売者を対象とした実践的 OTC 薬学の研修

3 - 2 - 2) のアンケート結果にも表れているように、SMは薬剤師の職能と考えるが、OTC薬の知識・経験がないので研修を受けたいという要望もあることから、実践的 OTC 薬学セミナーを企画した。プログラムを別紙8に示す。

- ・ セミナー開催： 6回シリーズとし、22年度は、23年1月、2月、3月、23年度は、23年5月、6月、7月を予定したが、震災のために、22年度分が完了できなかった。残る4回を5月、6月、7月、8月に繰り延べることになった。
- ・ テキスト作成：当初薬剤師向けに作成していたが、受講者の1/3が登録販売者であったため、編集し直して3月に製本化する予定であったが、震災のため、まだ印刷のめどが立っていない。毎回ごとの仮テキストを使用しているが早急に製本化を目指したい。

### 3 - 4 アンケート調査を踏まえた新しい薬局モデルの研究と提案

アンケート調査の解析と考察をおこない、シンポジウムでの討論をふまえて、真のSM支援に必要な理念とその実践プランをまとめ、薬局モデル提案をしたいと考えていたが、3月11日以降、スタッフの被災および薬剤師としての救援活動等により、検討会議等が開催できていない。後日の報告とさせていただきます。

別紙1

このアンケートは、一般用医薬品セルフメディケーション振興財団の助成をうけて実施しています

OTC薬（市販薬）に関するアンケートにご協力をお願いします

あてはまるところに○をつけてください

男	女	年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
現在、病院の薬をのんでいますか？			はい				いいえ			

問1. OTC薬（市販薬）を購入したことはありますか？

- 1. 購入したことがある（よく購入する ときどき購入する）
- 2. 購入したことはない

問2. 軽度の不調や傷などは、OTC薬などを適切に使用して健康を保つことをセルフメディケーションといい、国も推奨しています。上手に健康管理をするために、薬局や薬剤師に何を期待しますか？重視するものをそれぞれ2つ選んでください。

- 薬局：1. 相談しやすい雰囲気 2. 信頼できる薬剤師がいる 3. 豊富な品揃え 4. 価格  
5. 休日・夜間対応 6. その他（ ）
- 薬剤師：1. 薬の効果や副作用の十分な説明 2. 食品や健康法などの適切なアドバイス  
3. OTC薬の選択アドバイス 4. 人柄（親切である）  
5. 簡単な健康チェック（検査） 6. その他（ ）

OTC薬を購入したことがある方にお聞きします。

問3. 主にどこでお買いになりますか？

- 1. 薬局（かかりつけ薬局 その他の薬局）
- 2. ドラッグストア
- 3. スーパーの中のドラッグコーナー
- 4. 特にきまっていない

問4. 購入した際に薬剤師の説明や助言がほしいと思いましたが？

その理由を（ ）にご記入下さい。

- 1. 説明や助言がほしいと思ったことがある（ ）
- 2. 説明や助言は必要ないと思う（ ）
- 3. わからない（ ）

問5. OTC薬を選ぶときの情報を何から得ていますか？（複数回答可）

- 1. マスコミ（テレビ、新聞など）のコマーシャル
- 2. 外箱に書かれた表示
- 3. 知人からの口コミ
- 4. 店の専門スタッフの説明
- 5. その他（ ）

問6. OTC薬には、薬の説明書（添付文書）が入っていますが、読んで使用していますか？

- 1. 説明書を読んでから使用している
- 2. 説明書が入っていることは知っているが、読んでいない
- 3. 説明書の存在を知らない

問7. 薬局や薬剤師へのご意見がありましたらどうぞご記入下さい。

## セルフメディケーションに関するアンケート

必ず、薬剤師が記入してください。あてはまるところに○をつけて下さい。

管理薬剤師（はい いいえ）	薬局のスタッフ数：薬剤師（ 人）登録販売者など（ 人）
---------------	-----------------------------

問1. あなたの薬局では、OTC薬の販売を行っていますか？また、とり扱っている品目数は？

1. OTC薬の販売をしている（品目数 ）
2. OTC薬の販売はしていない

問2. 薬剤師が「セルフメディケーション」に関わることについてどのようにお考えですか？

あなたのお考えに近いものを選んでください。（複数回答可）

1. 薬剤師の職能のひとつであると思う。
2. 関わるべきと思うが、セルフメディケーションの知識がないので自信がない
3. 薬剤師は特に関わる必要はない
4. 一部の薬局で関わればよい
5. もっと積極的にセルフメディケーションに関わっていくべき
6. その他（ ）

問3. あなた自身は、日ごろセルフメディケーション支援をおこなっていると思いますか？

1. おこなっている
2. 心がけている
3. セルフメディケーション支援が何か分からない
4. おこなっていない

問4. あなた自身は、OTC薬について関心がありますか？

1. 知識を持っている（販売経験がある 販売経験はない）
2. 関心はあるが、知識が不足している
3. 関心はない
4. わからない

問5. OTC薬の研修を受けてみたいですか？

1. 研修をうけてみたい
2. 研修をうけてみたいとは思わない

問6. 現在、OTC薬の取り扱いのない薬局が多いですが、理由は何とお考えですか？

問7. OTC薬の取り扱いやセルフメディケーションについてご意見等ございましたらご記入下さい。



## セルフメディケーションに関するアンケート

開設者=管理薬剤師のかたにお尋ね致します。あてはまるところに○をつけて下さい。

薬局のスタッフ数：薬剤師（      人）登録販売者など（      人）

問1. あなたの薬局では、OTC薬の販売を行っていますか？また、とり扱っている品目数は？

1. OTC薬の販売をしている（品目数      ）      2. OTC薬の販売はしていない

問2. 薬剤師が「セルフメディケーション」に関わることについてどのようにお考えですか？

あなたのお考えに近いものを選んでください。（複数回答可）

1. 薬剤師の職能のひとつであると思う。  
2. 関わるべきと思うが、セルフメディケーションの知識がないので自信がない  
3. 薬剤師は特に関わる必要はない  
4. 一部の薬局で関わればよい  
5. もっと積極的にセルフメディケーションに関わっていくべき  
6. その他（      ）

問3. あなた自身は、日ごろセルフメディケーション支援をおこなっていると思いますか？

1. おこなっている      2. 心がけている  
2. セルフメディケーション支援が何か分からない      4. おこなっていない

問4. あなた自身は、OTC薬について関心がありますか？

1. 知識を持っている（販売経験がある      販売経験はない）  
2. 関心はあるが、知識が不足している  
3. 関心はない      4. わからない

問5. 国（宮城県）は、OTC薬の取り扱いのあるかかりつけ薬局を推進しています。OTC薬の

取り扱いがすすまない理由は何ですか？あなたのお考えに近いものを選んでください。（複数回答可）

1. OTC薬を置くスペースがない  
2. OTC薬販売のノウハウがない  
3. OTC薬を取り扱う意義を感じない  
4. 在庫や価格の問題      5. その他（      ）

問6. OTC薬の販売も積極的におこなう「かかりつけ薬局」のモデルがあれば、参考にしたいですか？

1. 参考にしたい      2. 興味はない      3. わからない

問7. OTC薬の取り扱いやセルフメディケーションについてご意見等ございましたらご記入下さい。

## 別紙5

## ①OTC薬に関するアンケート(一般生活者)

性別	人数
男	24
女	60
不明	26

年齢	人数
10代	1
20代	17
30代	16
40代	13
50代	24
60代	18
70代	18
80代以上	3

病院の薬を飲んでいますか？

はい 48  
いいえ 59  
記載なし 2

問1 OTC薬(市販薬)を購入したことがありますか？

1.ある	よく購入する	92
	時々購入する	9
2.ない		69
		17

問2 OTC薬などを用いて上手に健康管理をするために、薬局や薬剤師に何を期待しますか？

薬局	1相談しやすい雰囲気	67
	2信頼できる薬剤師がいる	49
	3豊富な品揃え	24
	4価格	29
	5休日・夜間対応	15
	6その他	3

分かりやすい説明  
耳が不自由なので手話または筆談してくださる職員を置いてください。

薬剤師

1薬の効果や副作用	73
2食品や健康法などの適切なアドバイス	33
3OTC薬選択アドバイス	39
4人柄(親切である)	14
5簡単な健康チェック	14
6その他	12

OTC薬を購入したことがある方にお聞きします。  
問3 主にどこでお買いになりますか？

1薬局

33

かかりつけ薬局  
その他の薬局

8

7

2ドラッグストア

72

3スーパーのドラッグコーナー

3

4特に決まっていない

2

記載なし

3

問4 購入した際に薬剤師の説明や助言がほしいと思いましたが？

1思ったことがある。

76

不安で弱っているから種類が多いので一言アドバイスがあると安心同じようなものでもどちらが自分に合っているか知りたいとき選択について不安である。薬の併用など一応確認したい類似した薬効を持つ薬の選択の際使い方がよくわからなそうなので飲み合わせとかについて説明がほしい2種とかでどちらを購入するか悩んでいる時薬の違いを説明して欲しい似たような薬が多くあり違いが分からない副作用について2名病院の薬との副作用迷ったとき同じような薬がいろいろあったので症状に対する薬の選び方詳しい説明(薬剤師さん)一言でも買った薬に対して声がけいただければうれしい適正量と飲み合わせについて知識に自信が無いので専門的助言がやはり役立つから胃薬一つとっても種類がたくさんあるので副作用について本当にその病気に適しているのか質問できるのでたくさん製品からどれを選んでいいのか何が違うのかわからない。副作用を知りたい。子供の薬、副作用など副作用が恐いので助言がほしい。他の薬と併用時の作用について値段ではなく商品の違いなど



自分の無い知識をもらえるから  
薬の種類による

- 2 必要ないと思う
  - 3 わからない
  - 記載なし
- 12  
14  
3

問5 OTC薬を選ぶときの情報を何から得ていますか？(複数回答可)

- 1 マスコミ
- 2 外箱に書かれた表示
- 3 知人からの口コミ
- 4 店の専門スタッフの説明
- 5 その他

44  
51

身内のアドバイザー  
インターネット  
自分で  
病院  
雑誌 今日健康 明日の友

2  
2

8

問6 OTC薬には薬の説明書が入っていますが読んでいますか？

- 1 読んでから使用
- 2 説明書が入っていることは知っているが読んでいない
- 3 説明書の存在をしらない。

76  
29

説明を受けているので

問7 薬局や薬剤師へのご意見

家族は市販薬を購入・使用しているが薬害の問題(死亡するケース)で薬は信用していない。  
気軽に相談できる雰囲気だと良いですね  
調剤の薬は安心して相談できる。  
学生にとっても収入の無い人にとっても買える値段であってほしい  
メーカーが多くてこれがかことをはっきり言えない事がある。  
積極的に薬の説明をしてほしい。  
資格が分からないことがあった。わかりやすいように名れをつけてほしい。  
薬剤師さんはどなたも親切に説明してください。  
相談する人はいます。  
同名店でも場所により一種の薬を購入することが出来ないのと同店であれば買うことが出来るようにしてほしい。  
これからもいろいろと相談に乗ってほしい。  
薬の効果や副作用についての充分な説明がほしい(必要と思う)  
その時にならないと実感かわかない。  
薬局をえらぶのにどのお店に行ったら良いのか分からない。  
薬以外のたとえば栄養学の知識も必要  
薬剤師不在をなくしてほしい。必要なときにいなくなつた。  
薬と食べ物の組み合わせで考慮したほうが良い点を教えてもらいたい。  
耳がふじゆうですので筆談又は手話で会話してください。  
飲み方の説明がほしい。(例えば食間の意味)

<別紙6>

セルフメディケーションとOTC薬に関するアンケート調査集計結果

- ②薬局薬剤師に対するアンケート（仙台市 区 99 店舗）
- ③薬局開設者に対するアンケート（仙台市 区 99 店舗）
- ④薬局開設者でかつ管理薬剤師に対するアンケート（仙台市内 40 店舗）

[調査結果]

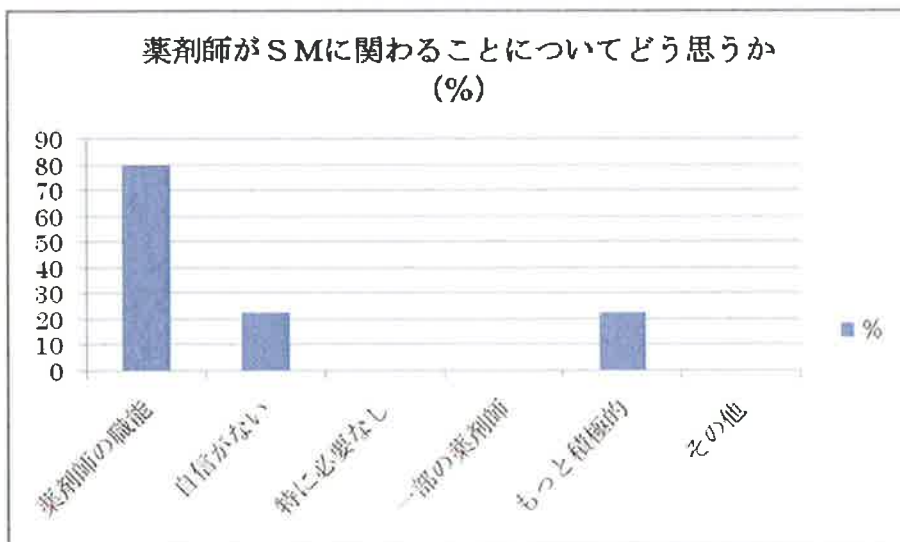
1) 回答数と内訳

調剤中心	46	OTC取り扱いあり:26	OTC薬なし:19
OTC薬	1	1	
両方	3	3	
合計	49	30	19

2) 薬剤師がSMに関わることについて

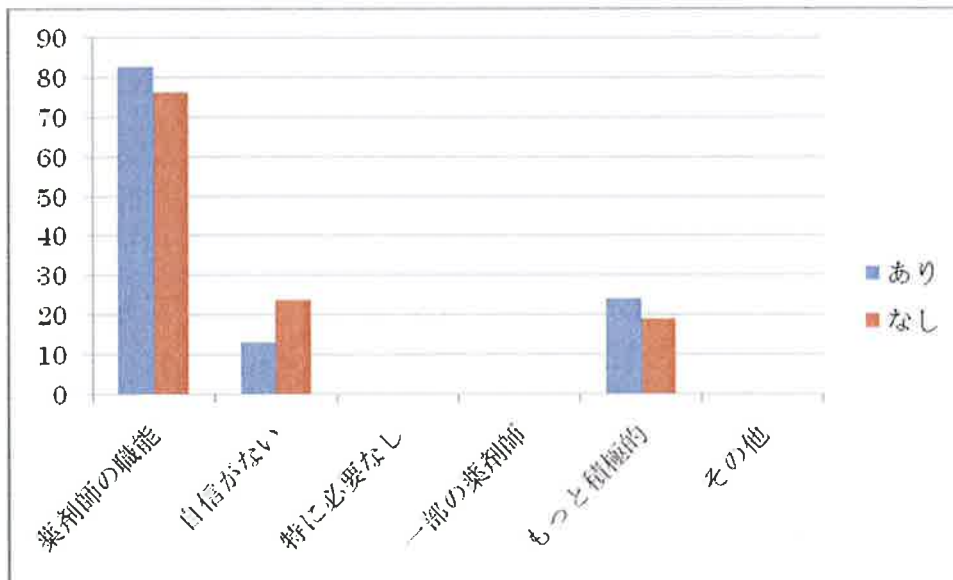
[薬局薬剤師]

人数	薬剤師の職能	自信がない	特に必要なし	一部の薬剤師	もっと積極的	その他
OTC薬あり(30)	24	6	0	0	7	0
OTC薬なし(19)	15	5	0	0	4	0
全体	39	11	0	0	11	0

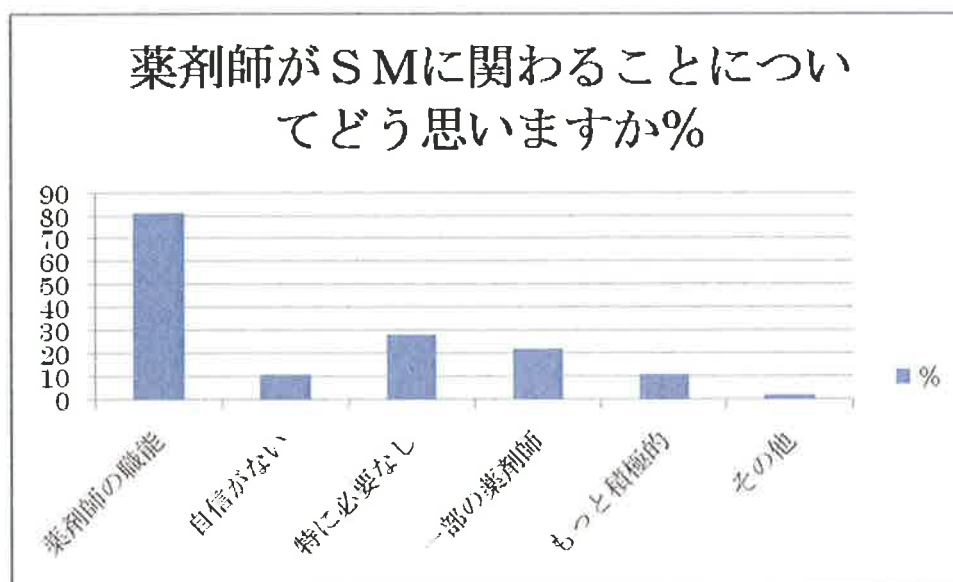


[OTC薬の取扱有無による薬局薬剤師に意識の違いがあるか：開設者で薬剤師＋薬局薬剤師]

人数	薬剤師の職能	自信がない	特に必要なし	一部の薬剤師	もっと積極的	その他
OTC薬あり(46)	38	6	0	0	11	0
OTC薬なし(21)	16	5	0	0	4	0

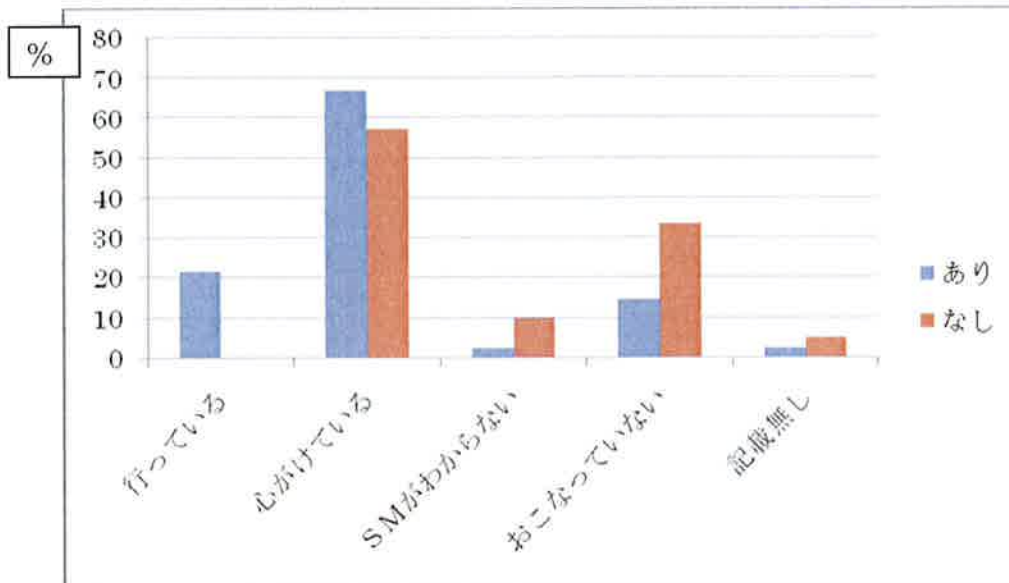


[開設者の意識]

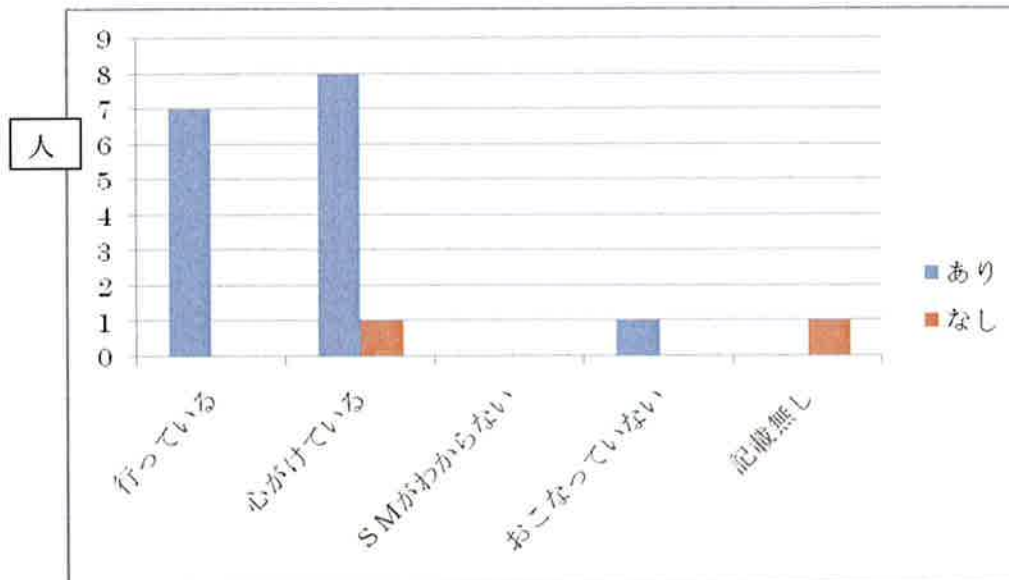


### 3) 薬剤師のSMへの自覚について

[薬局薬剤師]

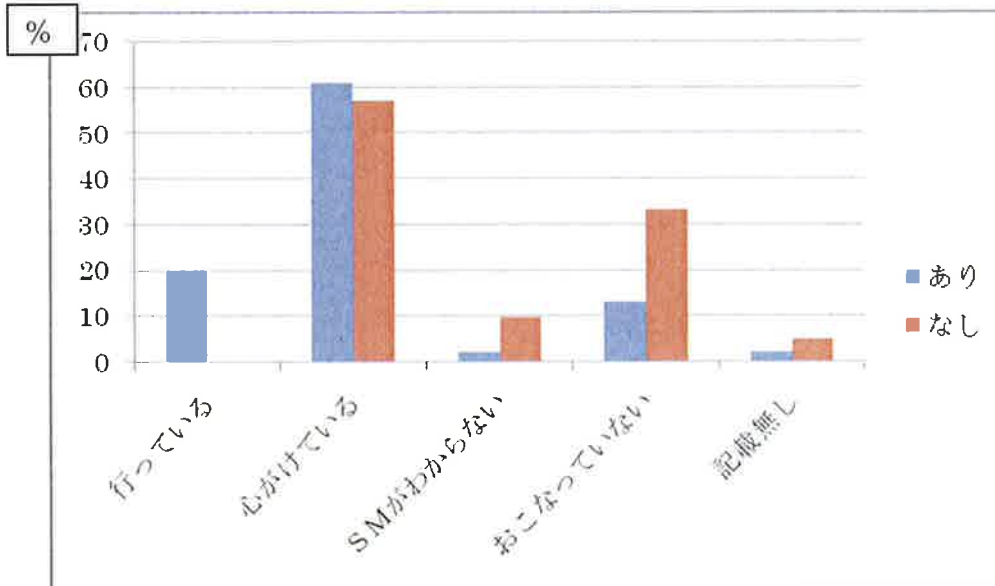


[開設者で管理薬剤師]



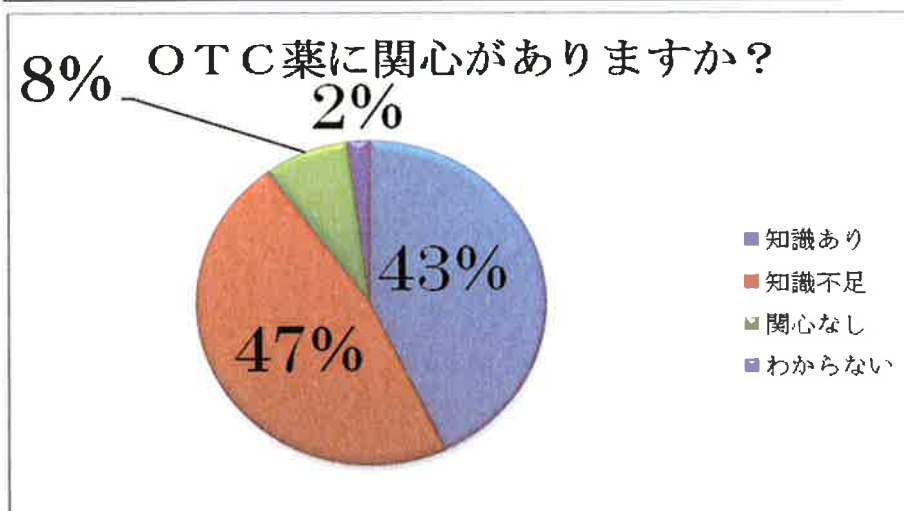
[薬局薬剤師+開設者で管理薬剤師]

	行っている	心がけている	SMがわからない	おこなっていない	記載無し
OTC薬あり(46)	9	28	1	6	1
OTC薬なし(21)	0	12	2	7	1

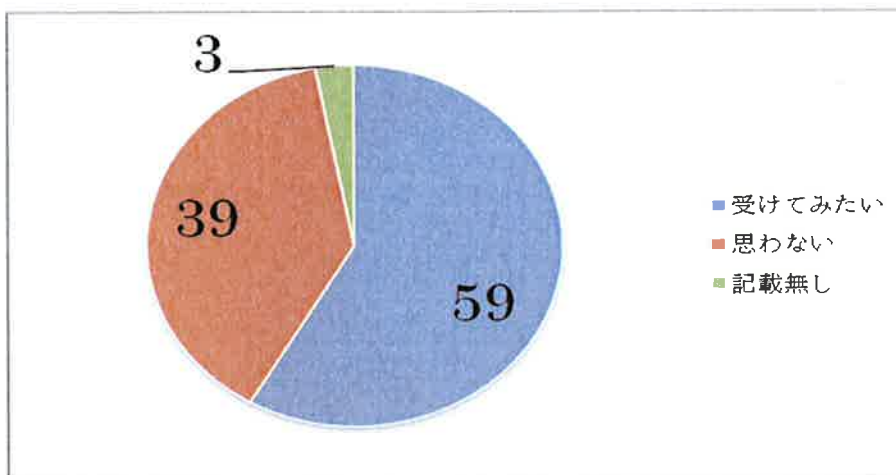


4) 薬剤師のOTC薬への関心について

	知識あり	知識不足	関心なし	わからない
OTC薬あり(46名)	12	13	0	1
OTC薬なし(21名)	9	10	3	0
全体	21	23	3	1
%	43	47	8	2



5) 研修への意欲について



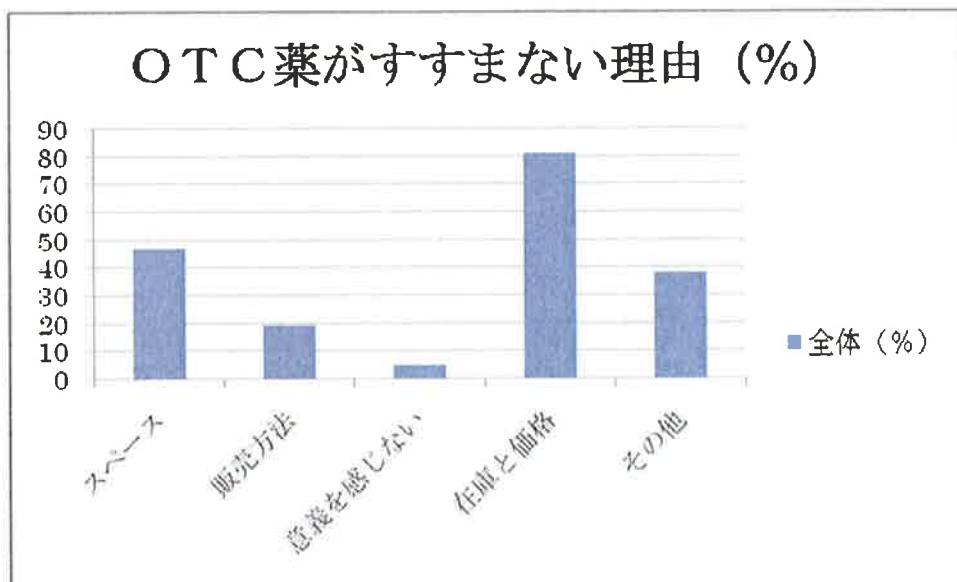
6) OTC薬の取扱がすすまない理由について

[管理薬剤師]

自由記載のため集計せず

[開設者]

	スペース	販売方法	意義を感じない	在庫と価格	その他
開設者(54名)	17	7	2	29	14
%	47	19	5	81	38



7) モデル薬局への関心について

[開設者]

開設者が薬剤師であるかどうかにかかわらず、約半数の開設者が、モデル薬局を参考にしたいと考えておることがわかった。一方、30%は興味がないと答えていた。

公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 平成22年度助成事業  
真のセルフメディケーション支援薬剤師の養成と新しい薬局モデル構築のための研究

シンポジウムプログラム

テーマ： 真のセルフメディケーション支援のための薬局と薬剤師の  
あり方

日時： 22年12月5日(日) 13:30～16:30

場所： (社)宮城県薬剤師会館 3階 セミナーホール

司会 今野 勇

開会挨拶 (社)宮城県薬剤師会会長 生出 泉太郎

シンポジウム 座長 鈴木 一正、富永 敦子

講演 I 新たなセルフメディケーション支援のかたち 13:40～14:40

～自己検査値を活用したトリアージ業務の可能性～

東和薬局 薬剤師

武政 文彦 氏

II 新しい薬局のかたち

14:40～15:10

一樹新生薬局 薬剤師(宮城県薬剤師会副会長)

佐々木 孝雄 氏

III 気がつけばセルフメディケーション支援30年 15:10～15:40

～これからの薬剤師の支援のあり方～

特定非営利活動法人ふあるま・ねっと・みやぎ

理事長(薬剤師) 戸田 絃子 氏

～～ 休憩 ～～

総合討論： 真のセルフメディケーション支援のために 15:50～16:30

生出泉太郎 氏、 武政文彦 氏、 佐々木孝雄 氏、 戸田絃子 氏

閉会挨拶 特定非営利活動法人ふあるま・ねっと・みやぎ 戸田 絃子

共催： 特定非営利活動法人ふあるま・ねっと・みやぎ (社)宮城県薬剤師会  
後援： (社)仙台市薬剤師会

## 役立つ実践 OTC 薬学セミナー日程（プログラム）

	実施日	内 容	講 師
第1回	2011 1/16 (日)	1-1. 開講にあたって（アンケート）	
		1-2. 法の中でのOTC医薬品	佐々木孝雄
		1-3. OTC医薬品を安全に用いるために	戸田 紘子
第2回	2/20 (日)	内服薬	
		2. かせ薬関連のくすり① こんな時どうする？（課題①）	佐々木孝雄 戸田 紘子
第3回	3/20 (日)	3. かせ薬関連のくすり② こんな時どうする？（課題②）	佐々木孝雄 戸田 紘子
		第4回	5/15 (日)
4-2 滋養強壮関連のくすり こんな時どうする？（課題③）	戸田 紘子		
第5回	6/19 (日)	外用薬	戸田 紘子
		5-1 痛み関連のくすり 5-2 かゆみ関連のくすり 5-3 炎症関連のくすり 5-4 感染関連のくすり こんな時どうする？（課題④）	佐々木孝雄
第6回	7/17 (日)	6-1 ワークショップ（課題解決）	
		6-2 まとめ（アンケート）	